



『忘れ草』の仲間たち!!

初夏の里山では、早朝、ホトトギスが♪テッペンカケタカ〜♪と鳴き声を空に響かせ、『忘れ草』（カンゾウ：萱草）がユリに似たオレンジのきれいな花を咲かせます。八幡坂の一重（ひとえ）のノカンゾウは、5月の高温と乾燥で沢山の葉が枯れて開花を心配しましたが、いつも通りにきれいな花を咲かせてくれました。駐在所西にある観音堂の墓所の斜面は、八重（やえ）のヤブカンゾウが沢山咲いた場所だったのですが、今年は除草剤で一面茶色になってしまいました。残念です。『忘れ草』の語源は、①美しい花が 1 日限りで終わってしまうため、②花があまりにも美しく嫌なことを忘れられるため、③食するとおいしくて嫌なことを忘れられるための 3 つの意味があると言われます。万葉集に載る程古（いにしえ）から親しまれてきた里花です。しかしながら、川本以西の寄居や長瀬などではまだ見かけますが、吉岡・江南近辺では年々見かけることが少なくなりました。大切にしていきたい里花です。

カンゾウの仲間は、尾瀬や日光などの高原に咲くニッコウキスゲ、海岸に咲くハマカンゾウ、佐渡島や飛島（とびしま：山形県酒田市）だけに見られるトビシマカンゾウの大群落などがあります。

園芸種は『一日花』（英語：デイリリー、ギリシャ語：ヘメロカリス）と呼ばれます。これは、かつて、欧米のプラントハンターがユリやカンゾウ、アジサイなどの東アジア自生の植物を自国に持ち帰り、品種改良を重ねて種類を増やし、園芸種として日本に逆輸入されるようになりました。小川町には、このヘメロカリスに魅せられ、三十数年間品種改良を進めてきた岡本自然農園があります。（次頁新聞記事参照）過日、この園を訪ね、同世代の園主と語ってきました。

里山の 7 月の活動は、7月12日（日）に行われました。今回も、40名近くの人々が集い、鎌や刈り払い機で里山や遊歩道の下草刈り、通学路になっている大学通り駐在所下歩道の草取り等に精を出しました。お疲れ様でした。



八幡坂のノカンゾウ



ヘメロカリス園



作業前ラジオ体操



遊歩道刈り払い



大学通歩道草取り

次回里山活動予定(8月は休会)
9月13日(日) 9:00~ 里山整備

カラー版は、ネットでご覧いただけます。
「吉岡里山」で検索してみてください。

